



15日(太鼓まつり)について



10時から例祭、14時30分から太鼓渡り宿入り、16時から大太鼓の渡りが行われます。

打ち鳴らされる太鼓の打ち方は各郷に伝わるものとされています。この渡りは昔からの決まった順番で宮入りし、行列が拝殿前正面に到着した時、太鼓を3回持ち上げるシューシ(崇祀)と言われる振る舞いを行います。

なお、雨天の場合は、代渡りと称し役員と代表者で太鼓なしの渡りの時もあります。



- 4月15日 本祭(太鼓まつり)
- 10:00～ 例祭
- 14:30～ 太鼓渡り宿入り
- 16:00～ 大太鼓の渡り



八幡まつり

国選択無形民俗文化財

近江八幡

近江八幡市 日牟禮八幡宮

4/14・15

松明まつり 太鼓まつり

日牟禮八幡宮境内周辺



近江八幡火祭りアプリ

千年の昔より受け継がれる炎
近江八幡の火祭りへご招待

近江八幡の火祭り アプリ誕生

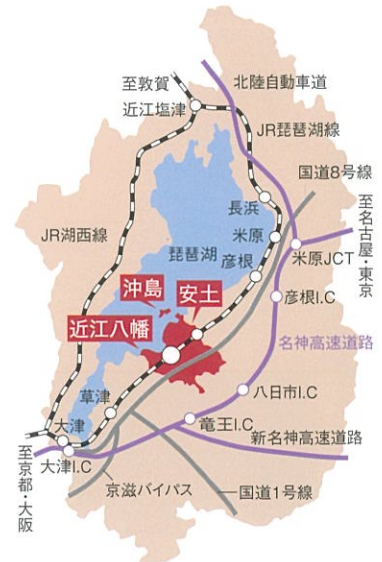
GooglePlay、AppStoreより「近江八幡の火祭り」を検索、または下記よりダウンロードしてください。



交通アクセス

東京方面から	
東京駅	東京I.C
東海道新幹線 約1時間55分	東名高速道路 約350km
名古屋駅	小牧JCT
東海道新幹線 約30分	名神高速道路 約66km
米原駅	米原I.C
東海道本線 約20分	約8km
彦根I.C	
約20分	
八日市I.C	約40分
約30分	

大阪方面から	
大阪駅	吹田I.C
JR京都線(東海道本線) 約30分	名神高速道路 約70km
京都駅	竜王I.C
JR琵琶湖線(東海道本線) 約30分	約20分



【お問い合わせ】
近江八幡観光物産協会 近江八幡駅北口観光案内所 TEL 0748-33-6061
<http://www.omi8.com>



はじめに

八幡まつりは、毎年曜日を問わず、4月14日・15日に実施されています。14日は“松明まつり”・15日は“太鼓まつり”これらを総称して“八幡まつり”と呼んでいます。

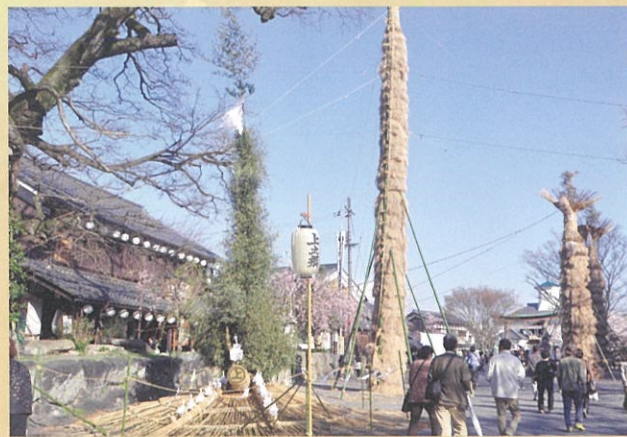
*なお、16日には宮司、巫女、各郷神役が出仕する“須寺渡り”と呼ばれる祭事があります。

八幡まつりの言われ

西暦275年に近江の地に行幸された応神天皇が、現在の日牟禮八幡宮へ参詣される際に、琵琶湖岸に位置する南津田7軒の家の者が、ヨシで松明を作り、火を灯して道案内をしたことが始まりとも言われますが、“古来奇説あり”と記されるなど、詳しいことは分かっていません。ただ、農業用水の水利にも大きく関係し、この祭りのネットワークにより、水争いが抑えられ秩序が保たれたようです。



日牟禮八幡宮の楼門



祭当日の昼間の様子

まつりの構成

上之郷(市井、多賀、北之庄、鷹飼、中村、宇津呂、大林)と下之郷(船木、小船木、大房、南津田)、12郷のまつりとされています。これらを神戸(かんべ)・土田(つちだ)・郷(ごう)の3つの座に分けます。祭礼では、そして神戸が上の郷、郷が下の郷と呼ばれます。土田は1郷だけ中の郷として、祭礼の中役をします。また、上の郷の大林、中の郷の土田、下の郷の船木の3郷を親郷、ほかを枝郷と言う呼ばれ方もします。



松明結の様子

一部の町は、14日の直近の日曜日に松明結が行われます。松明の芯となる部分に木材を入れ、ヨシと菜種ガラで巻き付けて作られていきます。中には地元で作られトラックで運ばれてくる松明もあります。



14日(松明まつり)について

松明はヨシと菜種がらを材料に作られ、中には10mに及ぶ大きさの物もあり、火を付けながら手で振りかざす「振松明」や引きずりながら持ち込む「引きずり松明」、他にも「とっくり松明」「船松明」と呼ばれるものなど、大きさや形も多種多様にわたります。各町によって作られる松明は、宮入と同時に持ち込むか、宵宮の前の日曜日から当日の夕刻までに所定位置に立て並べられます。

14日は午前中に大松明結い、昼から子ども松明の奉火、19時より神役太鼓の宮入、20時の仕掛け花火点火を合図に、日本有数の火祭りが始まります。まず、上之郷。市井引きずり松明、続いて北之庄の12本のとっくり松明が馬場を駆け抜け、次に鷹飼・大林・多賀・中村・宇津呂松明に奉火。土田は中之郷として奉火します。最後に多賀が上之郷の大松明に奉火し、下之郷へと舞台は移ります。

小船木、南津田、大房、船木の順で(南津田と船木は隔年で交代)奉火されます。南津田は八幡祭の囃矢とも言える、15本の振り松明と船松明を引き摺りながら参加します。また大房は、松明を寝かせた状態で奉火します。火の粉をかぶりながら竹で突き上げつつ松明を起こしていく姿は勇壮です。全ての松明の奉火が終わると、小船木が下之郷の大松明に奉火をし終了となります。

現在では、大きな松明も珍しくはありませんが、見物客への期待に応えるため、また郷のその折りの勢いが気持ちの表れなどとなり、松明も大きくなっていったようです。昔の松明は担いで持ち込めるような大きさで、その際の競争で住民同士のトラブルを招くこともあり、江戸時代には京都町奉行所に訴訟になったこともありました。よって、松明の大きさは、葎(ヨシ)の大きさ程度に自粛するようにと度々申し渡されています(太鼓についても同様で、次第に大きなものを調べていったと伝えられています)。

なお、宵宮と本祭の間は、拝殿に神輿が飾られます。1年のうち神輿を飾るのは、3月の左義長まつりと八幡まつりの時だけです。

4月14日 宵宮祭(松明まつり)

- 午前8時30分～ 大松明(笹松明)結い
- 午後1時～ 子ども松明奉火
- 午後7時～ 宮入
- 午後8時 松明奉火



南津田の振り松明



大房の松明



拝殿の神輿



松明への奉火の様子



拝殿の神輿